



中医基礎シリーズ

脾胃の生理と病理

黄 懷龍

一、臟腑学説

★ 「臟象学説」は、中医基礎理論の重要部分で、主に人体の観察によって、臟腑の生理機能、病理変化及びそれらの相互関係を研究する学説で、中医弁証論治の基礎になっている。

五 臟：心・肝・脾・肺・腎である。

形態：中身が満ちた臓器である。

機能：気血、津液、精気などの物質を生じ、貯蔵するところで、複雑な生命活動を主るところです。

六 腑：胆・胃・小腸・大腸・膀胱・三焦である。
形態：中空か、管状の臓器である。
機能：物質を転化することを主る。すなわち食べ物を受納、消化、転化、排泄する作用である。

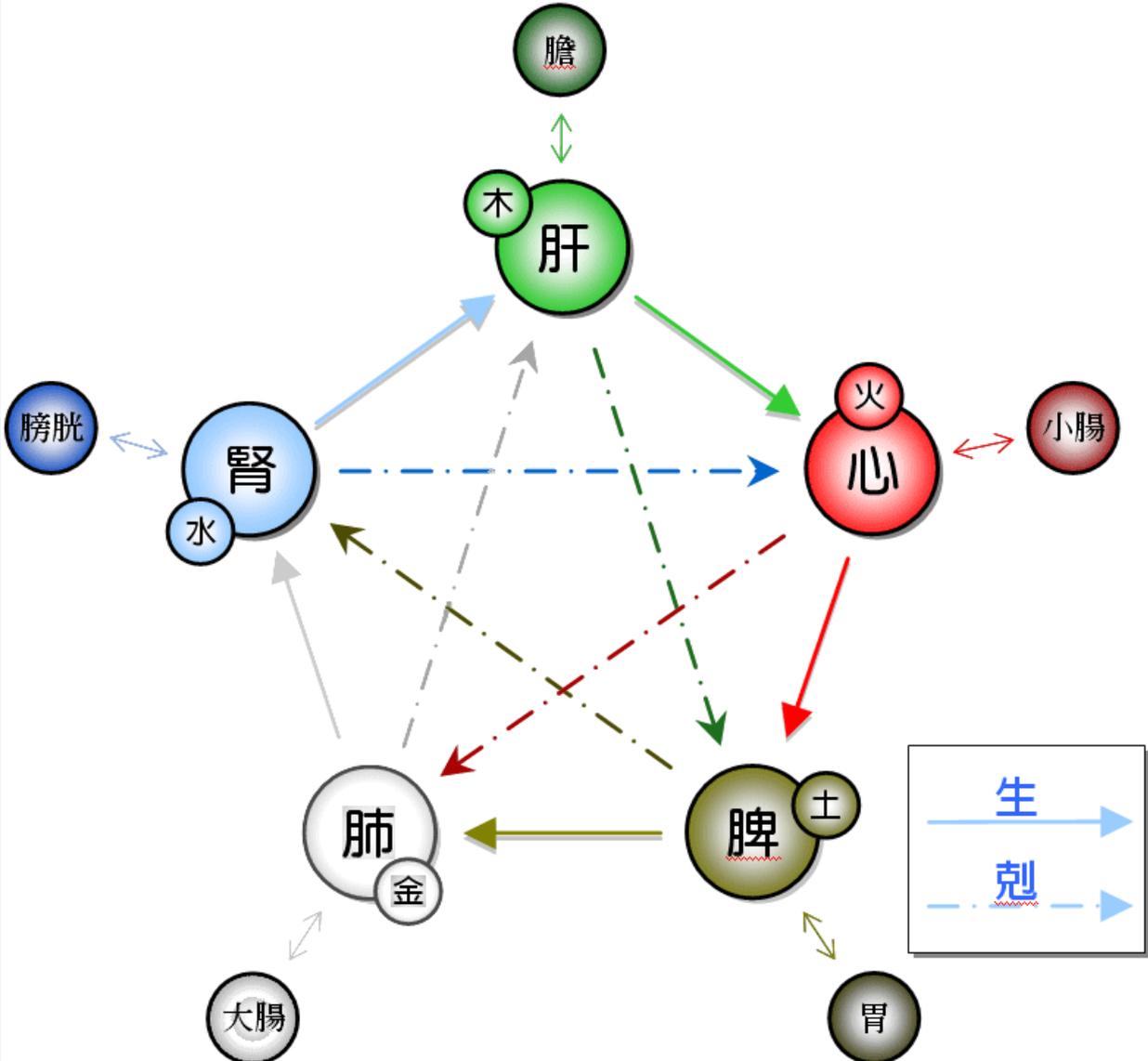
奇恒の腑：脳・髓・骨・脈・胆・女子胞である。
形態：中空のものが多く、腑に似ている。
機能：精気を蔵し、また臓にも似ている。

（臓象学説の内容は、臓腑の解剖、生理と病理、五臓と四肢、五官、九竅などの関係、臓腑の相互関係などがある）。

五臟六腑と五行

五臟	六 腑	五官	五体	五華	五志	五液	五行
肝	胆	目	筋	爪	怒	泪	木
心	小腸	舌	脈	面	喜	汗	火
脾	胃	口	肉	唇	思	涎	土
肺	大腸	鼻	皮	毛	悲	涕	金
腎	膀胱	耳	骨	髮	恐	唾	水

臟腑の五行関係図



二、脾胃の生理機能

(一) 概 念

脾胃は中焦に位置し、表裏関係とされている。脾は運化を主り、胃は受納を主る、共同で飲食物の消化、吸収と輸布を完成させ、気血生化の源となり、「後天の本」とも称されます。

(二) 脾の生理機能

1、脾は運化を主る

①水穀を運化する：飲食物の消化・吸収・輸送の機能である。脾は「後天之本」である。

②水湿を運化する：体の水液代謝、調節の機能である。

2、脾は統血を主る

脾気は血液の流れを統べて、脈管内を正常に運行させ、血脈の外へ漏れないような働きがある。「脾気固摂」と称する。

3、脾は昇清を主る

脾は水穀精微などの栄養物質を吸収し、肺に上がって、心肺の作用によって全身に散布させ、栄養提供を果たす。「脾気主昇」と言う。

(三) 脾と肢体官竅の関係

1、脾は筋肉、四肢を主る

体の筋肉、四肢の働き及び栄養状態は皆脾の水穀精微を運化する機能によるものです。

2、唇は脾の華である

「唇は脾の余り」で、唇の色艶は脾気の生理状態の現れる。

3、脾は口を開竅する

飲食・味覚などは脾の運化する機能に関係があり、脾気は健康であれば、食欲があり、味覚が正常です。

(四) 脾の生理特徴

1、脾は燥を好み、湿を嫌う

脾は水液運化を主る、一方、湿邪が盛んになると脾の働きに悪影響を与える。これは「湿困脾土」という。

2、脾気は夏との関係

脾は五行には中央に方位し、土、湿、黄色、甘味などと内在関係があり、脾気は夏に弱い、食欲不振、胃腸炎などは多い。

(五) 胃の生理機能

- 1、胃は受納を主る**：食べ物は食道を通過して胃に納まる。胃は「水穀の海」である。
- 2、胃は腐熟を主る**：胃で食べ物を初步的に消化する。脾胃は「後天の本」、「気血生化の源」である。
- 3、胃気は下降を主る**：食べ物は胃腸で消化吸収しながら、下へ進め最後に糟粕を大便として排泄する。胃気は「以降為順」。
- 4、胃気は人の本**：「胃気」は脾胃の生理機能の総括である。「脈に胃気が有る」（リズムが正しい緩やかな脈象で)、予後が良い。

(六) 脾胃の協調関係

1、受納と運化の協調：食べ物を消化し、精微を輸送し、全身に栄養を提供することができる。

2、昇と降：中焦は、脾胃気機の昇降の中枢であり、脾の昇清と胃の降濁の働きにより、腸と胃の空、満交替の生理状態ができ、他の臓腑機能とも気機を協調し合い、健康状態を保つ。

3、乾燥と湿りが助け合う：脾は温、乾燥を好み、陰寒と湿を嫌うので、脾に温め、乾燥であれば、運化の機能がよく。胃は陰腑で、陰液の滋養に頼り、潤いを好み、乾燥を嫌うのです。胃陰が充足すれば食べ物を受け、消化できる。

(七) 他臓腑との関係

1、 心と脾（火と土）

心は血を主り、脾は気血生化の源であり、血液を統攝している。両者の関係は密接である。もし思慮し過ぎると、心血を消耗して、更に脾の運化機能にも影響する。目まい、動悸、健忘、不眠、食欲不振、顔面に艶がないなどの「心脾両虚」の病理変化がみられる。

2、 肺と脾（金と土）

肺と脾は、主に気の生成と津液の輸布代謝の二つの面において密接な関係がある。生体の気の生成は、肺の呼吸機能及び脾の運化機能に頼る。

3、肝と脾（木と土）

肝と脾の関係は、肝の疏泄機能と脾の運化機能の間には相互に影響しあうものがある。「肝脾調和」と呼ぶ。

4、脾と腎（土と水）

脾は後天の本であり、腎は先天の本である。「腎陽は脾陽の元である」。腎陽が不足すると、脾陽を温めることが出来なくなる。

5、胃と脾（表と裏）

脾と胃は経脈によって互いに絡属し、表裏関係をなしている。脾胃は「後天の本である」と言われている。

三、脾胃の病理

(一) 運化を主る作用の低下

悪心・嘔吐，ゲップ，腹部脹満，腸鳴，便溏，食欲減退，水腫，痰飲形成，帯下，下痢，腹水など。

(二) 昇清作用の低下

眩暈，精神疲労，脱肛，内臓下垂，子宮下垂 などが見られる。

(三) 統血作用の低下

血便，血尿，崩漏，皮下出血，月経過多など。

(四) 気血生化の源の機能の低下

体がやせる，顔面萎黄，疲労倦怠，無気力，脈細弱。

(五) 筋肉と四肢を主り口に開竅する機能の低下

全身倦怠，筋肉無力、味覚異常，食欲減退

(六) 胃失和降

上腹部痛，ゲップ，吞酸，嘔吐・胸焼け・吃逆などが現れる。

四、脾胃の病証

1、脾気虚弱

【症状】 疲労倦怠感、顔色が萎黄、食欲不振、軟便或は下痢便、舌質が淡白、舌苔が薄白、脈が細無力。

【治法】 健脾理気

【方薬】 六君子湯

【組成】 人参、白朮、茯苓、半夏、陳皮、生姜、大棗、甘草

2、脾胃虚寒

【症状】 腹脹納少,腹痛,喜温喜按、畏冷、四肢冷え,口淡不渴、大便溏薄。或は肢体困重,全身浮腫、小便短少、或は帯下量が多く、質が薄い。舌質は淡胖、舌苔は白滑、脈は沈遅無力

【治法】 温中散寒

【方薬】 人参湯

【組成】 人参、白朮、乾姜、甘草

3、中氣下陷

【症状】 脘腹が脹で重墜感があり、食後にひどくなり、便意が多く、肛門にも重墜感がある。慢性下痢、場合によっては脱肛も見られる。或は子宮など内臓下垂を伴う。脾気虚証の症状が見られる。

【治法】 温中益気昇陽

【方薬】 補中益気湯

【組成】 黄耆、人参、白朮、当帰、陳皮、升麻、柴胡、生姜、大棗、甘草

4、脾不統血

【症状】 便血、血尿、皮膚の出血、鼻血、歯ぐきの出血、月経過多、崩漏等の出血で、常に次の症状が伴い、食少軟便、疲れ無気力、顔面に色艶がない、舌淡脈細弱等。

【治法】 補気摂血

【方薬】 帰脾湯（加味帰脾湯）

【組成】 白朮、人参、黄耆、当帰、茯神、遠志、酸棗仁、木香、竜眼肉、甘草、生姜、大棗

5、胃陰不足

【症状】 口燥咽乾、空腹感があるが食欲がない、胃脘嘈雜、痞脹不舒、腕部隱痛、呃逆、大便乾結、小便短少、舌紅少津、脈細数など。

【治法】 養陰益胃

【方藥】 麦門冬湯

【組成】 麦門冬、半夏、人參、甘草、大棗、粳米

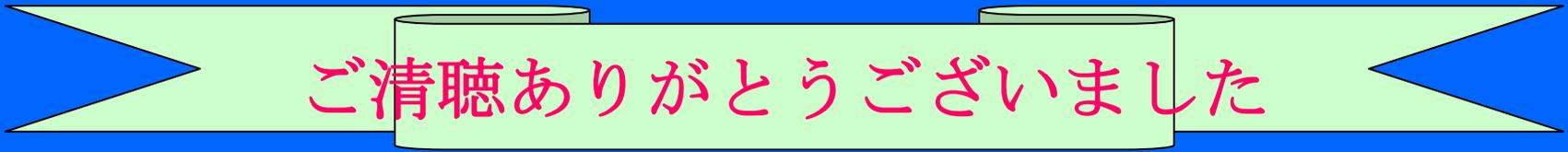
6、脾胃不和

【症状】 心窩部のつかえと膨満感、胸やけ、はきけ、嘔吐などに、腹鳴、下痢などを伴うもの、舌苔が黄膩、脈が弦数。

【治法】 和胃降逆、開結除痞

【方薬】 半夏瀉心湯

【組成】 半夏、黄連、黄芩、乾姜、人参、大棗、甘草



ご清聴ありがとうございました